



私たちは、信頼される・優しい・安全な医療を実践し、**「信頼・優しさ・安全」**
地域と勤労者の皆様の健康を守ります。

院長挨拶

院長 萩野 浩

地域の皆様におかれましては、日頃より当院の運営にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。さて、日本は今、大きな転換期を迎えています。高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が進む中、2025年には団塊の世代がすべて75歳以上となり、日本は本格的な超高齢社会を迎えました。社会保障費の増大、労働力不足、医療・介護体制の維持困難など、いわゆる「2025年問題」が現実のものとなり、全国の病院経営の悪化も社会問題として顕在化しています。医療の需要が増える一方で、担い手の不足が深刻化し、地域医療のあり方そのものが問われています。2025年には2040年を見据えた地域医療構想のガイドライン策定が進められ、今年から地域医療構想の議論がスタートします。2040年には団塊ジュニア世代が高齢者となり、一層の高齢化が進むことが予測され、医療機関はまさに岐路に立たされています。持続可能な医療・介護のグランドデザインを描くことが、今後の社会にとって不可欠であり、私たちはその責任を担っています。

当院も厳しい経営環境に直面していますが、昨年度に比べて改善の兆しが見えております。昨年来、職員一人ひとりが困難な環境に立ち向かい、当院のレジリエンスを示してくれました。こうした粘り強い努力が、病院の基盤を支え、地域からの信頼を守り続けています。今後も地域に必要とされる病院であり続けるために、質の高い二次救急、とりわけ増加が見込まれる高齢者救急への迅速かつ適切な対応に努めます。当院は年間約3,200件の救急車を受け入れており、24時間体制の検査や応接待機体制を強みとして、地域のクリニックや介護施設からの患者受け入れを柱に地域医療を支えています。これらの取り組みは、地域住民皆様の安心につながると同時に、医療機関としての存在意義を示すものです。職員一丸となって困難に挑み続ける姿勢は、当院の強みであり、信頼の源泉です。患者さんや地域の皆様に寄り添い、安心して受診できる環境を整えることが、私たちの使命であると考えています。

さらに、労災病院としての使命である勤労者医療や仕事と治療の両立支援にも注力してまいります。働く世代を支えることは、地域社会の活力を維持するうえで欠かせない役割であり、医療の持続可能性を高める重要な要素です。

私たちは「信頼される、優しい、安全な医療の実践」を理念に掲げ、これからも全力で地域に貢献してまいります。医療の未来は決して容易ではありませんが、職員の力を結集し、地域とともに歩むことで、必ずや持続可能な医療の姿を築いていけると確信しています。



消化器内科

多職種連携による内視鏡チームとして、幅広く質の高い内視鏡検査や治療ができる体制が整っています。

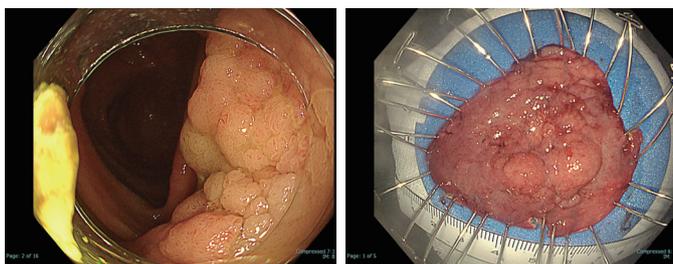


山陰労災病院消化器内科には現在 7 名の医師が在籍し、それぞれが専門性を発揮し、幅広い消化器疾患の診療にあたっています。その中心となるのが内視鏡による検査や治療ですが、新病院の開院にともない内視鏡室も新しく生まれ変わりました。広く明るい3つの部屋を有し、それぞれに最先端の内視鏡機器、最新の電子カルテシステムを装備しています。また、内視鏡室は放射線部門（CT や MRI 室）や救急外来に隣接しており、それぞれの場所から移動する手間や時間が少なく、効率良く連続して検査を進めることができます。特に緊急を要する救急患者さんに対して、迅速に内視鏡処置を開始できることは大きなメリットです。



消化器内科医師

あらたな取り組みとして、早期大腸がんに対する内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術：ESD）を導入しました。ESD は内視鏡を通じて特殊な電気メスを使用し大きなポリープや早期がんを切り剥がし取る治療です。大腸は屈曲が多く動きやすいうえ、壁の厚さが 3～5mm（胃の半分程度）と非常に薄いという特徴があります。そのため、穿孔（大腸に穴があく）しないように慎重かつ繊細な操作が必要で、高い技術力を求められます。今年度から経験豊富な内視鏡医師が着任し、5月から11月末までに13例の大腸ESDを実施しました。なかには7cmを超える大きな病変もありました

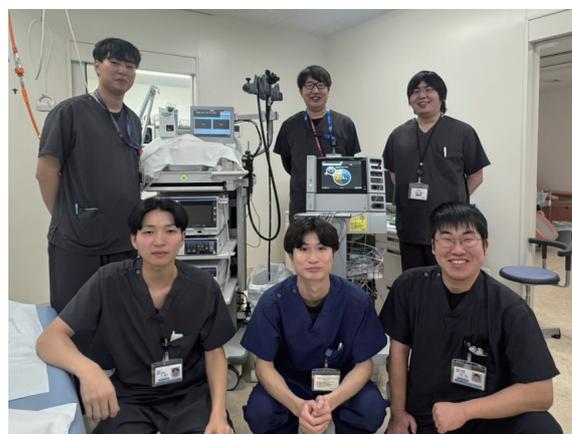


大腸（上行結腸）の7cm超の巨大病変 ESDにより問題なく一括切除しました

が、いずれも穿孔などの合併症を起こすことなく適切に切除できており、良好な治療成績が得られています。

近年では内視鏡治療もより高度化し、機器の取り扱いやトラブルへの対応に精通したスタッフの存在が欠かせません。山陰労災病院では、医師、看護師のほかに、あらたに8名の臨床工学技士（CE）が内視鏡室のメンバーに加わりました。日常の内視鏡業務はもちろんのこと、休日や夜間の緊急内視鏡も CE と一緒に行っています。彼らのサポートのおかげで、より安心・安全でスムーズな内視鏡処置ができるようになりました。

このように、当院では多職種が連携するチーム医療として、高度で質の高い内視鏡診療を提供できる体制が整っています。気になることがございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせ、ご相談ください。



今年度から臨床工学技士（8名）が内視鏡業務に携わってくれています。日常の内視鏡検査・処置に加え、夜間、休日の緊急内視鏡も一緒に行っています。

医師紹介

● 第二循環器内科部長 友森匠也 医師



Q1 名前 専門分野 経歴 医師年数を教えてください

友森 匠也（とももり たくや）循環器内科、出身は鳥取大学、医師 15 年目です。

Q2 専門領域を教えてください

専門領域は不整脈分野で、ペースメーカーやカテーテルアブレーションなどの診療をさせて頂いています。

Q3 医師を志した理由を教えてください

たくさん回り道をしてきましたが、自分自身や周囲の方から健康の大切さを実感し、自分も医療に携わる仕事をしたいと志しました。

Q4 循環器内科の魅力ややりがいを教えてください

循環器内科では主に心臓や血管の病気を、薬やカテーテルという道具を使って診療しています。「心臓が悪い」と言われると不安になりますが、それに立ち向かう術を学び、診断や治療を実践していけることに魅力を感じます。予防医学のような症状が出る前に対処する医療も大切ですが、循環器内科では胸痛や息切れ、足のむくみといった症状で困られている方々も多く、実際にそういった方々が良くなってもらえるとやりがいを感じます。

Q5 診療で大切にしている姿勢や考え方を教えてください

病気そのものも大事ですが、その人、さらにはご家族の心配事にも目配りできるようになりたいです。多職種で連携するチーム医療で乗り切っていますので、やはり周囲の方々のありがたみを感じます。いつも良いことばかりとはいきませんので、諦めずに向き合い続ける姿勢も大切にしたいです。

Q6 今後この労災病院で取り組みたいことを教えてください

2025 年 3 月までは大学病院の不整脈チームでお仕事をさせて頂きました。その学びをもとに、今後は当院での不整脈診療を広げていきたいと思っています。リードレスペースメーカー、カテーテルアブレーションなど規模は大きくないかもしれませんが、お一人お一人に合った治療を提供できるよう努めてまいります。また心不全パンデミックに答えられるようチーム医療で臨みたいと思います。症状の強い急性期の集中治療に始まり、安定期に入れば日常生活の注意点を踏まえた再入院予防など包括的な視点で多職種介入をしていきたいです。

Q7 地域の患者さんにどんな医療を届けたいか教えてください

山陰労災病院の担う二次救急を実践していきたいです。地域のみなさんの健康に関する不安や困り事に、幅広く対応していきたいです。患者さんだけでなく、そのご家族さんの不安を和らげ、安心いただけるような医療を提供できればと思います。そのためにはいろいろな声に耳を傾ける姿勢を持ち続け、地道な信頼関係作りを大切にしたいと思います。地域のみなさんに労災病院に対する日々のご理解・ご協力に感謝しつつ、安心して暮らせる生活環境作りを、医療の側からお役に立てるよう精進してまいります。

● 脳神経外科 網崎秀史 医師



Q1 名前 専門分野 経歴 医師年数を教えてください

網崎 秀史（あみさき ひでふみ）脳神経外科、出身は鳥取大学、医師 8 年目です。

Q2 専門領域（脳腫瘍・脳血管障害・外傷など）を教えてください

脳神経外科の領域の中でも、てんかんやパーキンソン病などを扱う機能的脳神経外科について勉強中です。実際の診療では、脳血管障害や頭部外傷を診察することが多いです。

Q3 医師を志した理由を教えてください

両親が医療従事者で、医療について自然と興味を持ちやすい家庭環境でした。また歳が離れた兄が医師になったことも大きな影響があり、医師を志しました。

Q4 脳神経外科の魅力ややりがいを教えてください

脳の病気は生活の質に大きな影響を与えてしまいますが、腫瘍や外傷や脳梗塞などの患者さんが術後元気になれることがあるのを目の当たりにすると、とてもやりがいを感じます。ニューロサイエンスとしての側面があるのも面白い所と思います。

Q5 診療で大切にしている姿勢や考え方を教えてください

診察でも手術でも可能な限り丁寧に取り組むことを心がけています。先輩方の背中を見ながら、より上手な手術を、よりたくさんの知識を身につけることを目指して鍛錬しています。

Q6 今後この労災病院で取り組みたいことを教えてください

今までの積み重ねてきたことでしか貢献できないと思い、これまで通り、血管障害や外傷等の診療で貢献したいです。特に血管障害は専門医として認定を受けたため、より積極的に貢献できればと思っています。

Q7 地域の患者さんにどんな医療を届けたいか教えてください

僕が診させて頂いた患者さんには、皆さんに満足してもらえる様な医療をお届けしたいです。

総合支援センター紹介

『少し休みたい』を支えるレスパイト入院

当院では、在宅療養を継続されている患者さんご家族の支援の一環として、地域包括ケア病棟でのレスパイト入院を受け入れております。通院や冠婚葬祭、ご家族の休息など、さまざまな理由で利用可能です。入院中は医療スタッフがケアを行うため、安心してご家族の時間を確保することができます。

お申し込みやご相談は、総合支援センターまでお気軽にお問合せください。

地域の皆さまと学び合う“地域連携交流会”を開催しました

2025年9月25日『第12回山陰労災病院地域連携交流会』で『認知症治療』について地域の専門職の方と一緒に学びました。参加者の方からは、認知症治療に関する知識だけでなく、多職種役割・連携についても分かりやすかったと好評でした。2026年2月12日には看護サマリーに関するテーマで地域連携交流会を開催する予定です。今後も継続的に交流会を実施し、地域連携強化に取り組んでいきたいと思っております。



地域の仲間と学び合う時間—総合支援センターでの実習を実施しました

2025年11月、訪問看護師さんやケアマネージャーさんなど、地域で活躍されている皆さんに総合支援センターへお越しいただき、在宅移行期支援実習を行いました。地域の方をお招きしての実習は初めての試みです。入院前から退院後の在宅生活を見据えてどのように患者さん・ご家族へ関わっているのか入退院支援の実際を見ていただきました。参加者からは「学びを事業所へ持ちかえり、気持ち良い連携・ケアマネジメントにつなげていこうと思う。」といった感想が寄せられました。



●2026年1月発行

山陰労災病院

〒683-8605 鳥取県米子市皆生新田1丁目8番1号

TEL 0859-33-8181 FAX 0859-22-9651

ホームページ

さんいんろうさい

検索

